

音の出ないピアノ

寄る辺なき音楽家が毎晩ピアノに向う

指は優しく鍵盤を愛撫するが

音が一向に出てこない

曲想は胸の中で過熱しているが

曲は流れ出ようとしめない

音楽家は諦めずに白鍵黒鍵をさまようが

音は空気を伝わって人の心に届くことを止めてしまった

伝わらなくても良い

いつか音楽家は自分に言い聞かせていた

弾き貯めた調べがやがて心を漲らせ はじける様になつて

いつしか隅の方から流れ出すだろうと

せつせとピアノに向つた

月の無い静かな夜の浜辺で

音楽家の曲が聞こえたという報告を聞いた

ピアノも弾き手の姿も見えない波打ち際で

寄せては返す波音の合間に微かに聞こえたという

音楽家は初めて手を休めて耳を澄ました

自分の心が既に音を見放しているのに気付いたのだ

(2001.4.20)